

## 閉会挨拶

学生生活委員会委員長  
華頂短期大学学長

中野正明氏

短大見学会から合わせまして3日間に亘って開催された本研修会は、大変密度の濃い研修会となりました。ご苦勞様でございました。非常に充実感のある研修ではなかったかと、私自身、この大役を仰せつかって3度目の研修会になりますが、今回が最も印象深い研修となりました。特に、昨日の夜の情報交換ネットワークの会では、終わりの時間がきましても、皆さん席をお立ちになることなく、各テーブルで突っ込んだ話合いが行われている様子に、本当に頼もしく感じた次第です。今回の研修テーマに掲げた『人間力育成にむけた学生支援のあり方』に相応しく、昨日の濱名先生の基調講演におきましては、学習効果の向上ということをテーマに、大変示唆に富んだお話をいただいたかと思えます。今ほどの坪井先生のご講演におきましても、人権救済の視点に立ちまして、私ども教育現場の原点に立ち返った想いを深めさせていただきました。

最後に皆さんにお願いをしておきたいことがあります。昨日、2つの学生支援G Pの事例報告をいただきましたが、この学生支援G Pは、ご案内のように、今年度より文部科学省よりの予算化によって、特別補助制度が設けられました。私もこのような大役を仰せつかっている関係で、この学生支援G Pの実施委員として参加をさせていただいたわけでございます。資料集にその申請状況等が表になって載っていますが、短期大学の申請状況は、公立、私立を合せましても29件、私立短期大学では28件の申請状況でありました。私は最初、文部科学省および学生支援機構のほうからこの学生支援G Pの趣旨について説明を受け、特別補助として設けられるという話を伺ったときに、非常に有難い制度を設けていただいたなと思いました。それは補助の基軸として、大規模校の学校でも、小規模校の学校でも、学校を単位として考える。学長のリーダーシップに基づいて、定員とか教育分野の差異に係わらず、学校単位として補助を行う。ですから、各大学1事例の申請となるわけです。そのようなことをいろいろお聞きして、これは短期大学にとって非常に大切な補助制度だなと感じたわけです。そして何よりも学生が2年間をいかに充実して満足感をもって卒業していくかという意味において、学生支援というのは非常に重要な課題であるわけで、これに文部科学省が目を向けられたということは本当に有難いことだと思いました。短期大学協会の総会の席などでも、学長、理事長の先生方にご理解を深めていただくよう、ご案内をさせていただきました。しかし、申請件数を見て驚きました。残念なことに短期大学がもっとも少ない数でした。短期大学の場合、専門にこのような書類を作成するスタッフも少ない。大規模校ですと、このような特別補助に関する書類を作成する専門のスタッフがいたりします。また予算の執行が、正式に採択の通知を受けた後でないに行えないということもあって、短期大学は2年間（3年間のところもありますが）ですので、例えば今年度の場合、下半期になってからでな

いと執行ができないということでありまして、1年半の在籍期間における学生支援に対してしか予算がつかない。このため、なかなか申請件数につながらなかったという事情が窺えます。しかし短期大学の枠として、実は20件ほど採択される枠をもらっていたわけです。にも係わらず最終的な審査の会議におきましては、短大の申請件数の割合を考えると11件ということに落ち着いたわけです。これについては、来年度もこのような制度が引続いて実施されるように伺っていますので、是非とも、学生支援に係わっておられる担当の先生方が中心となって企画をしていただいて、そして学長あるいは理事長に申請のお勧めをしていただければと思います。

昨日、研修の始まりにあたりまして、短期大学教育の特長ということを今後私たちは真剣に考えていかなければならないという話をさせていただきました。私は、この委員会をお預かりしているからというのではなくて、やはり短期大学の生きる道としては、改組転換とか、教育内容の見直しということも重要ではありますが、これだけユニバーサル化が進み、全入時代を迎えた今日、志願者獲得に一喜一憂するのは当然のことではありますが、そのことだけに陥っていたのでは、きっと将来がないかもしれないなと思います。特別補助金の申請やあるいは他の研修会にどうしても目が向いてしまっている状況に少し憂いを感じている一人であります。この研修会に、学生生活指導担当者の方々はもちろんのこと、もっと理事長や学長の方々までもが関心を持ってご参加いただくべき時代になっているのではないかと思います。どうぞ先生方、学校にお帰りになりましたら、学生部長をはじめ理事長、学長の先生方に、これからの大学づくりは、元気のでるキャンパスづくりが重要な視点であり、高等教育機関の中で短期大学を選択して進学してきた学生が、自分の学校が持っている仕組みやプログラムを活用して、いかに充実感、満足感をもって卒業して社会人となり、日本の健全な将来を背負っていくかということが、社会がこれから私ども短期大学という高等教育機関を評価することにつながるということをご進言いただければと思います。

3日間にわたりまして、本当にお疲れ様でございました。密度の濃い研修になったのではないかと思います。今年度の研修会を生かしまして、来年度さらにどのようにしたら研修の実りが向上するのかということについて、検討をしてみたいと思います。

どうも有難うございました。